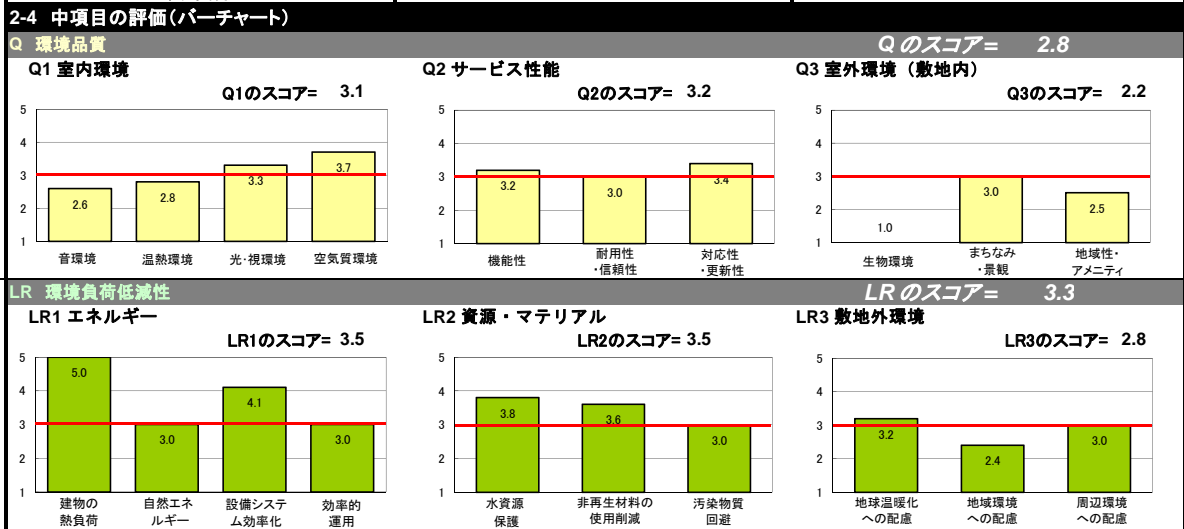
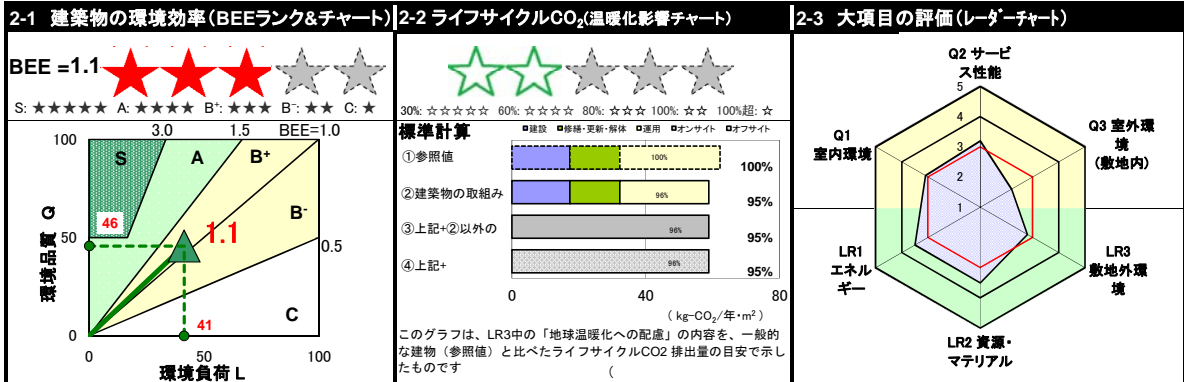


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) エスラインギフ 名古屋第1センター	階数	地上4階建て
建設地	清須市春日江先54、55、56、57	構造	S造
用途地域	準工業地域・第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	100 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2014年7月10日
敷地面積	3,994.79 m ²	作成者	藤木工務店
建築面積	2,498.18 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	6,300.02 m ²	確認者	藤木工務店



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>3.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	3.3 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	3.3 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境										3.1
1 音環境										2.6
1.1 騒音										2.6
1 室内騒音レベル										3.0
2 設備騒音対策										3.0
1.2 遮音										3.0
1 開口部遮音性能										3.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-
1.3 吸音										1.0
2 温熱環境										2.8
2.1 室温制御										2.8
1 室温										3.0
2 負荷変動・追従制御性										3.0
3 外皮性能										3.0
4 ゾーン別制御性										3.0
5 湿度・湿度制御										-
6 個別制御										-
7 換気・空調に対する配慮										-
8 監視システム										-
2.2 湿度制御										2.0
2.3 空調方式										3.0
3 光・視環境										3.3
3.1 昼光利用										3.3
1 昼光率										4.2
2 方位別開口										5.0
3 昼光利用設備										3.0
3.2 グレア対策										3.0
1 照明器具のグレア										-
2 昼光制御										3.0
3 視覚的グレア対策										-
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										3.0
4 空気環境										3.7
4.1 発生源対策										4.0
1 化学汚染物質										4.0
2 化学汚染物質対策										-
3 化学汚染物質										-
4 化学汚染物質										-
4.2 換気										3.0
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4 換気計画										-
4.3 運用管理										4.0
1 CO ₂ の監視										3.0
2 喫煙の制御										5.0
内装材は、全面的にF☆☆☆☆を採用している										4.0
全館禁煙である										5.0
Q2 サービス性能										3.2
1 機能性										3.2
1.1 機能性・使いやすさ										3.0
1 広さ・収納性										3.0
2 高度情報通信設備対応										3.0
3 バリアフリー計画										3.0
1.2 心理性・快適性										3.6
1 広さ感・景観										3.0
2 リフレッシュスペース										5.0
3 内装計画										3.0
1.3 維持管理										3.0
1 維持管理に配慮した設計										3.0
2 維持管理用機能の確保										3.0
3 維持管理業務										-
2 耐用性・信頼性										3.0
2.1 耐震・免震										3.0
1 耐震性										3.0
2 免震・制振性能										3.0
2.2 部品・部材の耐用年数										2.9
1 躯体材料の耐用年数										3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										4.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔										2.0
ステンレスダクトを採用している										4.0
給水管B・通気管A・給湯管Dを採用している										5.0

2.4 信頼性				3.2	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3 電気設備			②	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1 階高のゆとり				5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性			②	3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38			2.2
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.5
1 建築物の熱負荷抑制			BPI=0.598	5.0	0.06			5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR換算値=16%	4.1	0.40			4.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.1				
集合住宅の評価				4.1				
4 効率的運用				3.0	0.27			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.5
1 水資源保護				3.8	0.15			3.8
1.1 節水				4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				4.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63			3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		4.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			2.8
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2=95%	3.2	0.33		3.2
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				-	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうちに外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 眩光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

(仮称)エスラインギフ名古屋第1センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) エスラインギフ 名古屋

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 節水型器具や高効率機器の採用により、環境負荷の低減に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 昼光率2.5%以上である。内装材は、全面的にF☆☆☆☆を採用している。 全館禁煙である。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース・自販機を設置している。 耐用年数の長い管材を採用している。節水型器具を採用し、井水の利用が可能である。 階高3.9m以上である。壁長さ比0.3未満である。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率機器の採用をしている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自動水栓に加え、擬音装置・自動洗浄便器を採用している。 LGS下地材・OAフロアを採用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な量の駐車スペース・荷捌き用車両の駐車施設の確保をしている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。